説明文教材を読み深めるための授業の工夫

―学習過程の工夫をとおして―

目　　次

Ⅰ　テーマ設定理由 ……43
Ⅱ　研究仮説 ……43
Ⅲ　研究内容 ……44
　1　説明的文章の理論研究
　　(1)　説明文の特性 ……44
　　(2)　「理解」の各学年段階表 ……45
　　(3)　「理解」の指導事項系統表 ……46
　2　学習過程の工夫
　　(1)　課題追求の学習課程 ……47
　　(2)　課題解決の課程 ……48
　　(3)　意欲的によませるための留意点 ……50
　3　説明的文章教材の指導
　　(1)　説明文における基礎的・基本的事項のポイント ……51
　　(2)　説明的文章の年間指導計算 ……52
Ⅳ　授業実践
　1　単元名 ……54
　2　単元の目標 ……54
　3　単元設定理由 ……54
　　(1)　教材について ……54
　　(2)　児童について ……54
　　(3)　指導について ……54
　4　指導計画について ……55
　5　本時の指導 ……58
　6　実践を終えて ……61
Ⅴ　まとめと今後の課題 ……62
　《参考・引用文献》

浦添市立浦城小学校教諭
伊　波　智　子

説明文教材を読み深めるための授業の工夫
― 学習過程の工夫をとおして ―

浦添市立浦城小学校教諭　伊 波 智 子

Ⅰ　テーマ設定理由

学習指導要領の６学年の国語の目標(2)は『目的に応じて効果的に話を聞いたり，目的や文章の種類などに応じて正確な読み方で文章を読んだりすることができるようにするとともに，適切な読み物を選んで読む習慣をつける。』と，示されている。

また，理解の領域で特に強調されていることに「叙述に即した読み」があり，この系列の指導事項として「エ　文章の叙述に即して，細かい点にまで注意しながら内容を正確に読み取ること。」があげられている。読解指導の重点としては，５年生の「要旨を理解しながら文章を読むことができるようにする。」ことをうけ，６年生では「目的や文章の種類などに応じて正確な読み方で文章を読むことができるようにする。」となっている。特に６年生では「目的に応じた読み」と「文章の種類や形態に応じた読み」の能力を養うことが大切であると考えられる。そこで，説明文や論説文などに興味・関心・感動をもち読みのめあてにそって学習課題を設定し，文章の論理を読み取らせたい。

説明文の教材には未知との出会いがありそれには科学的な知識内容，新しい情報，社会や人生に関する話題など子どもの知的好奇心を揺さぶる素材が多くこれまで思いもよらなかった事実や現象がはっきりしてきて深い感動を覚え知る喜びを味わうことが多々ある。

ところで，児童が受け身になりつまらないと思っているところでは思考は生き生きと働かず倫理的に考えることができにくいと思われるが，これまでの説明文の指導をふり返ってみると学習活動や思考の流れが単調になり形式的な発問に流され，説明文教材の授業で筆者の物の見方や考え方を追求することが弱かった。また，知識・情報に対する興味・関心・感動を子どもたちにもたせることや，筆者の説明の仕方の工夫や倫理の展開のおもしろさに気づかせることがうまくいかなかった。

そこで，子ども一人ひとりが「初めてわかったことは何か」「疑問に思うことは何か」「もっと知りたいことは何か」などの課題意識をもち生き生きと楽しく説明文の学習に取り組み，一つの課題を真剣に追求し検証していくことができるような学習過程を工夫したいと考え本テーマを設定した。

Ⅱ　仮説

説明文教材の読みの指導において大事な言葉をおさえて学習課題を設定し，その課題を基に事象と書き手の感想・意見を叙述に即して読ませたり，それに対する自分の感想・意見（考え）をもたせる学習活動を組織すれば，まとまりとつながりを考えて文章の中心的内容を正しく読み取ることのできる確かな読みの力をつけることができるであろう。

Ⅲ　研究内容

1　説明的文章の理論研究

(1)　説明文の特性

最近，基礎教科的な考え方が強くなって説明的文章が重視されるようになった。そういう時代に，説明的文章をさけて通ることは許されないし，説明的文章を読むときに文学教材のような感性的・情緒的な捉え方では説明的文章の特質をきわまえない，あいまいな理解しかできないことになる。説明文は書き手と読み手がたがいに緊張対立関係にあって一方から教示的に教えようとするのとは根本的に異なる。さらに，文章の筋道をおさえて読んでいかないと，書き手の言いたいことがはっきりつかめない。また，抽象的な表現を具体的なものに結びつけていかないと言葉の意味だけはわかっていても，文章全体の中身が理解できず，書き手の意図をとらえることができない。

説明文の特徴として，説明の内容，書き手の心のもち方，構え方，あるいは書き手と読み手との関係などによって，文章のスタイルや性格がちがってくる。それぞれ意図するところによって書かれた文章にその特徴が見られ，読み手に与える効果が違ってくる。

① 記録　（いつ・なんのために・なにを・どうした）

◎　事実を正確に記述することに重点をおき，書き手の意見や感想などをあまりまじえない。

② 説明　（○○は□□です。）

◎　読み手を予想して，事実を正確に伝えるために，事実を多少整理したもので，書き手の意見や感想をまじえない。

③ 解説　（こういうわけだから○○になる。じつは□□ということなのだ。）

◎　書き手が知っていることを多くの読み手に伝えわからせようとする目的意識が強く，事実の説明だけに終わらず書き手の考えをまじえる。

④ 論説　（○○だから□□しなければならない。○○だから□□してもらいたい。）

◎　書き手が，強く言いたいことを筋道を立てて論証したり，説得したりする文で，読み手の共感を求め，納得させて行動に移させようとする。

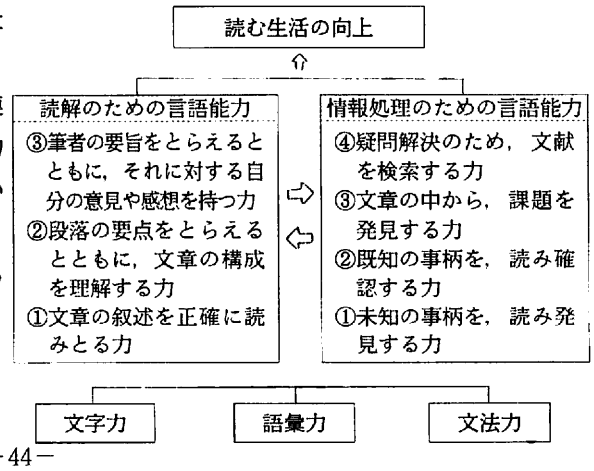
⑤ 説得　（○○だから□□しようではないか。）

◎　あることがらを示して，読み手の理解や協力を得ようとする。

このような事から，文章の種類や形態によって，読み取りの視点や方法を変える必要がある。

また，説明文教材を読解する基礎・基本的技能と，情報処理のための言語能力は，相互に対立するものではない。相互に関連しあうことによって，総体的な読みの能力を高め，読み手の読書生活を向上させていくものと考えてよいであろう。

読みの言語能力の相互関係を図式化すると，右のようになる。



(2) 「理解」の各学年段階表

	共通な能力	理　解　○聞く（読書）●読　解
第1学年	経験した事大体	○粗筋をつかみながら ●大体を理解しながら （楽しんで）
第2学年	事柄の順序（続き方）	○順序を考えながら ●順序や場面の移り変わりなどに注意して （進んで）
第3学年	要点（簡単な構成）	○要点をおさえながら ●要点を正しく理解しながら （いろいろな読み物）
第4学年	中心点（段落相互の関係）	○要点や中心点を正確に押さえながら ●段落相互の関係を考えて中心点を正確に把握しながら （読書の範囲を広げる）
第5学年	主題や要旨（全体の構成）	○話し手の意図をつかみながら ●主題や要旨を理解しながら （読書を通して考えを深める）
第6学年	目的や意図（効果的）	○目的に応じて効果的に ●目的や文章の種類などに応じて正確な （適切な読み物を選ぶ）

(3) 「理解」の指導事項系統表　（説明的文章に関する事項）

系統＼学年		1年	2年	3年	4年	5年	6年
音読		ウ．語や文としてのまとまりを考えながら音読すること。	ウ．文章の内容を考えながら音読すること。	ウ．文章の内容が表されるように工夫して音読すること。	ウ．事柄の意味，場面の様子，人物の気持ちの変化などが，聞き手にもよく伝わるように音読すること。		
文字言語	内容理解	エ．文章の内容の大体を読み取ること。	エ．時間的な順序，場面の移り変わり，事柄の順序などを考えながら，内容を読み取ること。	エ．文章の要点を正しく理解しながら，内容を読み取ること。	エ．段落相互の関係を考えて，文章の中心的事柄を読み取ること。	ウ．文章の主題や要旨を考えながら内容を読み取ること。	ウ．目的や文章の種類や形態などに応じて内容を読み取ること。
	叙述に即した読み					エ．文章の叙述に即して，細かい点にまで注意しながら内容を正確に読み取ること。	エ．文章の叙述に即して，細かい点にまで注意しながら内容を正確に読み取ること。
	想像・鑑賞		カ．人物の気持ちや場面の様子を想像しながら読むこと。	カ．人物の性格や場面の情景を想像しながら読むこと。	カ．人物の気持ちの変化や場面の移り変わりを想像しながら読むこと。		カ．優れた描写や叙述を味わいながら読むこと。
	感想・意見			キ．聞いたり読んだりした内容について，感想をまとめたり自分ならどうするかなどについて考えたりすること。	キ．聞いたり読んだりした内容に対して，一人一人の感じ方に違いのあることに気付くこと。	カ．話し手や書き手のものの見方，考え方，感じ方などについて理解すること。	キ．話し手や書き手のものの見方，考え方，感じ方などについて，自分の考えをはっきりさせながら理解すること
	目的的な読み			ク．自分の立場から大事だと思うことを落とさないで文章を読むこと。	ク．読む目的に応じて大事な事柄をまとめたり，必要なところは細かい点に注意したりしながら文章を読むこと。	キ．必要な事柄を調べるため，また，必要な情報を得るため，文章を読むこと。	ク．目的に応じて，適切な本を読んだり，効果的な読み方を工夫したりすること。
	再構成（関連）					ク．聞いたり読んだりした内容について，自分の立場から再構成して表現するようにすること。	

2　学習過程の工夫

子ども一人ひとりが生き生きと楽しく説明文の学習に取り組むようにするために，子どもの論理を踏まえた弾力性のある楽しい説明文の学習過程を構築していくために，次のことを踏まえることを大事にしたい。

① 子どもの知的感動を大切にする。
② 興味・関心をもたせるための絵・写真等の資料を工夫する。
③ 子どもが主体的に説明文の学習に取り組めるようにする。
④ 基礎的・基本的な説明文の読みの能力が身に付くようにする。
⑤ 意図して言葉（重要語句）に着目させ指導する。
⑥ 多様な学習活動が展開できるようにする。
⑦ 発展的な学習の広がりが期待できるようにする。
⑧ 表現能力との関連が図れるようにする。

(1) 課題追求の学習過程

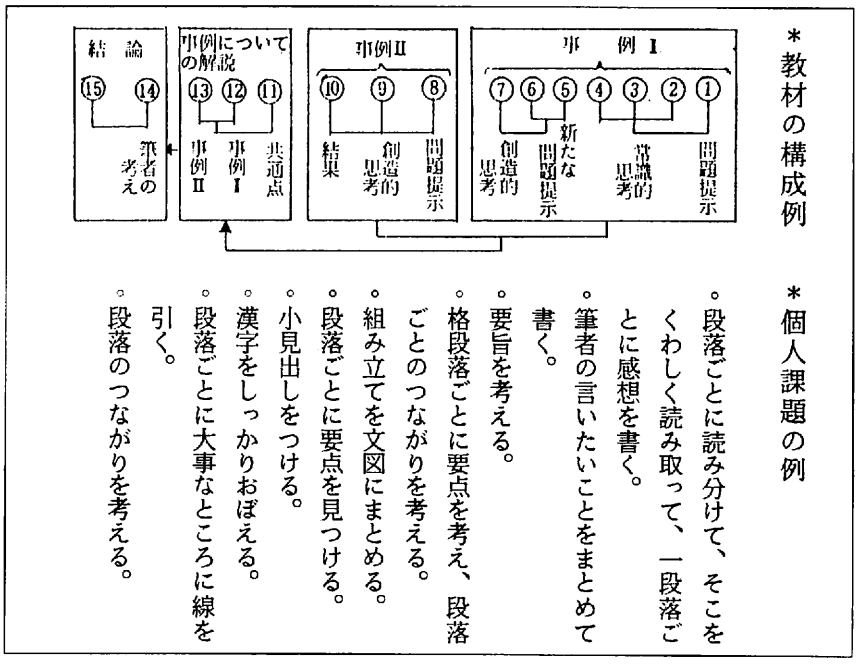
◎ 共通課題を追求する学習過程

問題提示文を学級全体の共通課題とし追求していく。その際，小課題を設定し，それぞれについて個人やグループでまとめ，全員で確かめ合う。

◎ 個人課題追求の学習過程

高学年においては，思い切って学習を個別化し，自己の発見した課題を，説明文の学び方を生かしながら自分で追求していく学習過程を工夫してみる必要がある。

（子ども一人ひとりの問題意識や読みの能力を的確にとらえておくことが大切）



(2) 課題解決の過程

ア 問題意識を喚起し，保持・強化する。

イ 児童の生活と深く結びついた学習を構成する。

段階			指導上の留意点
課題把握	つかむ	①つぶやき読み ②全体読み ③共通課題ねり上げ	・単元名・題名から内容を予想する。 ・教材文を読みながら生じてくる驚きや疑問などを書き出していく。（学習課題づくり） ・再度自分なりに読みなおし，自分にとって一番重要な問題を明らかにする。 ・読み深めに役立つ課題づくりをめざす。
計画立案	見とおす	④学習計画 ⑤解決方法の工夫	・文章構成に応じた学習課題の配分を行い，単元の学習全体を見通す。 ・小課題の設定（フラシュカードの準備） ・これまでの学習経験を振り返り，学習課題に適した解決の方法を考えていく。自己課題であり自己評価する対象になる。
追求	調べる・深める	⑥ひとり調べ ⑦みんな調べ ⑧まとめる	・自力で問題解決を図る。精緻化により読み取った内容をノートやワークシート等に記録しておく。 ・ひとり調べによる読みを，グループやクラス全体に提示し，集団による思考活動を重ねるなかで加除修正していく。 ・読み取ったことに対して自分の感想をまとめる。 ・理解を深めるために音読させる。
応用・発展	つかい・つくりだす	⑨授業での活用 ⑩発展読書 計画読書 身近な読書	・これまでの学習で養われた読解技能が，以後の学習で生かせるようにする。 ・指導者による読書材の提示 ・自由意志による計画に基づく読書 ・新聞・雑誌・カタログなど日常生活の中で手軽に行う読書 ◇児童の自己選択による「自己学習」の場である。

① 問題解決の方法

ね　ら　い	観　　点
・読みの構えづくり	・題名から話の中身を予想する。
・ていねいな読み	・問いかけに答えながら読み（つぶやく）
・「もの・こと」と語句との結合	・さし絵と語句を結びつける。
・話のだいたいの流れ	・同じ語句を見つける（重要語句）
・正確な読み①	・主語・述語を見つける。
・関係の読み①	・事実と理由づけを読む。
・正確な読み②	・対応する語句を見つける。
・関係の読み②	・指示語の内容をとらえる。 ・接続語を付け加える。 ・（同じ内容の）言い換えを見つける課題を照応させる。
・正確な読み③	・中心語句を見つける。 ・段落の要点を書く。 ・小見出しをつける。
・情報価値の判断 レトリック	・書き出し，例示，結論，文末表現，助詞に注意する。

観点は，文章内容を読解する際に，読みの構えをもち，内容理解を，深めつつ，その表現の仕方（論述のスタイル）に目を向けさせていくものである。
こうした学習の継続により，説明文の読解の手だて（課題解決の方法）を会得していくことができる。文章を読解するとは，読み手が叙述に即して，意味世界を創り出していくことで，正に，文章と対決しつつ，思考活動を活性化することである。

② 自己決定の促進

何を学習するかとともに，どのように学習するかに関して，課題解決の過程を自覚させ，読み取りの手だてを定着させることをめざすなかで，自己課題の設定と評価の場を工夫させる。

読みの学習は，自己の読みを修正する過程であり，話し合い活動の中で友だちの読みに触れたとき，自己の読みに生かし，ノートやワークシートの加除修正を柔軟に行う力をつけることである。

③　ともに学ぶ場をつくる

個と集団との有機的な関係を育てることにより，自己学習がスムーズに展開する。それは学習集団が形成されていくにつれて，自由なコミュニケーションの度合が高まり，個々のメンバーの役割が集団の中で生かされ，集団の中で機能が向上していくためである。

④　実践的態度を育てる

「できる」（能力）は，実践の場を数多く経ることによって，恒常的な態度へと変容していく。読解力においても然りである。

ア　粘り強く読む

イ　目的をもった「計画読書」「身近な読書」

(4)　意欲的に読ませるための留意点

①　知る喜びを味あわせる。

- 知的満足感をあじわわせ，児童の感想を生かした授業を構成する。
- 対象を教材文におくのではなく，教材文を通した児童の反応におくことを基本とする。

②　教材文と学習者の出会いに創意・工夫をする。

- 生活と結びつけて読む。
- その題材に関する自分の考えを400字ぐらいの作文に書き,それをベースにして教材文を読む。
- その題材にまつわる話を教師が用意しておき,その話を枕にして教材文を読んでいく。
- その題材に関係することを書いた他の人の文章を紹介する。
- その題材にまつわる視聴覚にうったえるもの，あるいは実物などを用意する。

③　単元名・題名を大事の取り扱うようにする。

- 単元名や題名は，文章を見る窓である。単元名や題名に接して，子どもは，文章の内容を予想し，筆者に期待する。

④　課題に基づく読み取りを図る。

- 発問〜応答だけの型でなく，読んでは書き，書いては読むという作業化した学習を大切にしたい。

⑤　読みのイメージ化を図る。

- 活字の理解にとどまらず，言葉を通してイメージ化できるような読みを志向する。

⑥　筆者の立場で読ませる。― 感じ方，考え方，見方，それにのべ方 ―

- 題名や書き出しをどう工夫しているか。事例は一つでもいいのになぜ二つのせたのか。筆者はなぜここに「しかし」を用いたのかなど筆者の立場になって読むと内容と結びつくことを気づかせる。

⑦　読み広げる発展学習をさせる。

- わからないこと，疑問に思うことをはっきりさせることは，新たなエネルギーとなり，図書室，他の本へと目を向けることで，学習が点から線へとつながり，読書指導への発展を図ることができる。

3．説明的文章教材の指導

(1) 説明文における基礎的・基本的事項と指導のポイント（6年）

基礎的・基本的事項	指導のポイント
言語，言葉の使い方に対する感覚などについての関心を深めること。	・いろいろな文章を読むことを通して，筆者の表現の仕方に心が向くようにする。 ・作文活動の中で，語の使い方に心を配ることができるようにする。 ・生活的言語活動の場（授業以外のすべての時間）を活用するための工夫をする。
文章を書くことによって，自分の考えを深めること。	・高学年としては，思索する表現活動の機会や場を広げるようにする。 ・読書感想文に限らず，いろいろな機会をとらえて，意見や感想を述べる文章を書かせるようにする。 ・〈例〉出来事や社会の情勢についての意見や感想 自分の将来について 日記を通して
書き手のものの見方，考え方，感じ方などについて，自分の考えをはっきりさせて読むこと。	・書き手の考え方などに対して，自分の受けとめ方，考え方を単に脳裏に描き止めるだけでなく，文章として表現させ，理解と表現とがかかわって，理解がいっそう深い確かなものになるようにする。 〈例〉書き手の表現をそのまま書き抜く。 書き手になったつもりで書く。
語句の意味を文脈の中で的確に理解すること。	・難語に直面してすぐに辞典を引くのではなくて，文脈の中で思考し，想像もして，その確認を辞典でする。 （辞典の活用）
描写や叙述の優れた箇所を読み味わうこと。	・読解学習を進める中で，内容理解と同時に表現にも十分に目を向けさせることが，読解を確かにし，深いものにする。 ・精読・味読を関連づけた指導を考慮する。

(2) 説明的文章の年間指導計画

学期	月	領域	文種形態	学習内容	単元名	指導事項
一	6	理解 言語	説明文	ものごとを関係づけて読む 説明文の読書	四　人間の文化を考えて せんこう花火 暮らしと道 調べるために読む	・文章の叙述に即して，細かい点にまで注意しながら内容を正確に読み取ること。（理エ） ・事象を客観的に述べているところと，書き手の感想，意見を述べているところとの関係を押さえながら読むこと。（理オ） ・話し手や聞き手のものの見方，感じ方などについて，自分の考えをはっきりさせながら理解すること。（理キ） ・聞いたり読んだりした内容について，目的に応じて再構成して表現すること。（理ケ） ・文章や話の内容，事柄などを要約したり敷衍したり表現すること。（表コ）
二	9	理解 表現	説明文 記録文	事象の記述の仕方を読む	六　問題を追って 生きている土 事実にもとづいて	・文章の叙述に即して，細かい点にまで注意しながら内容を正確に読み取ること。（理エ） ・事象を客観的に述べているところと，書き手の感想，意見を述べているところの関係を押さえながら読むこと。（理オ） ・話し手や聞き手のものの見方，考え方，感じ方などについて，自分の考えをはっきりさせながら理解すること。（理ク） ・事象や感想，意見の関係を考えながら，話の内容を正確の聞きとること。（理ア） ・話の内容と自分の生活や意見とを比べながら聞くこと（理イ） ・文章や話の内容，事柄などを要約したり敷衍したりして表現すること。（表コ）

学期	月	領域	文種形態	学習内容	単元名	指導事項
二	11	理解	説明文 論説文	文章の展開・構成を読む	三　考えるおもしろさ 「知る」ということ	・文章の叙述に即して，細かい点にまで注意しながら内容を正確に読み取ること。（理エ） ・話し手や聞き手のものの見方，考え方，感じ方などについて，自分の考えをはっきりさせながら理解すること。（理キ） ・主題や意図をはっきりさせ，表現することによって更に自分の考えを深めること。（表エ） ・文章や話の内容，事柄などを要約したり敷衍したり表現すること。（表コ）
三	2	理解 言語	説明文 評論文	言葉のはたらきを読む	八　言葉について考える 言葉の意味 自分を支える言葉	・文章の叙述に即して，細かい点にまで注意しながら内容を正確に読み取ること。（理エ） ・話し手や聞き手のものの見方，考え方，感じ方，感じ方などについて，自分の考えをはっきりさせながら理解すること。（理キ） ・主題や意図をはっきりさせ，表現することによって更に自分の考えを深めること。（表エ） ・文章や話の内容，事柄などを要約したり敷衍したりして表現すること。（表コ） ・語感，言葉の使い方に対する感覚などについての関心を深めること。（言エ・語句オ）

Ⅳ　授業実践

第６学年　国語科学習指導案

1　単元名　人間の文化を考えて

2　単元の目標

(1)　表現の細かい点にまで注意して読み，人間の文化に対する筆者の物の見方や考え方を読み取ることができるようにする。

(2)　目的に応じて適切な本を選んで読んだり，調べたりすることができる。

(3)　(1)，(2)を通して学年目標「問題をとらえて考える」ことができる。

3　単元設定理由

(1)　教材について

「人間の文化を考えて」の単元は，知識・情報を読む系列の説明文で「せんこう花火」と「暮らしと道」の２つの中心教材からなっている。

「せんこう花火」は夏の風物詩であるせんこう花火の美しさを科学的な目で観察し，簡潔で親しみやすい文体で説明した魅力的な教材である。日本独特のせんこう花火のもつ不思議さと美しさにふれることにより，せんこう花火について改めて興味をもち，さらに日常生活のごく身近なところにある文化について細かく追求する科学者の鋭い目や，その考え方を読者が親しみを持ちながら読み進めていけるように書かれている。

また，道という文化に焦点をしぼったもう一つの中心教材「暮らしと道」では，社会科の歴史的学習と関連を図り，主体的な読みへの意欲・関心を高めるため二つの教材を比較・総合することによって日常うっかりみのがしている身近な人間の文化に改めて目を向けさせ興味をもった問題について適切な本を選んで読んだり，資料を集め文章を書いたり調べるための読書ができるように配慮する。

(2)　児童について

ほとんどの児童は，せんこう花火で遊んだ経験をもっているが，せんこう花火のもつ不思議さや美しさを認識したり，物事を細かく見つめ深く考えるということは乏しいように思われる。まして，これを発明した祖先に思いをはせる児童はほとんどいない。

しかし，この時期の児童は知識欲が強く，そのために読書範囲も広がり，興味をもつ問題について調べたり，考えたりすることのできる子が増えてくる。こうした時期に優れた科学的な文章を読ませることにより日本の文化について興味をもつことができるであろう。

(3)　指導について

子ども達にとって，あまりにも知られたせんこう花火だが「せんこう花火の一つひとつの変化が不思議なものだ」「他の花火にはないものをもっているのだ」ということや「日本独特のもの」であることを新しい情報としこのことを具体的にとらえさせ，新たな感動をおぼえさせたい。そのためには，子ども達が文章にくいついていき，読みの喜びを味わうことのできる子ども主体の学習・子どもが前面にでる学習を考えていきたい。

そこで，作品と学習者との積極的な対話を促すための題名読み，ワークシートの良さを取り

入れたノート指導や図式化の工夫など身につけさせる。また，優れた表現や語句に注目させて読ませることを通して，説明文の論理的な思考過程を筋道を立てて正確に読み取る力を伸ばすとともに化学的な物の見方や考え方を身につけさせる。

4　指導計画

〈第一次〉　読みを進めて行くための学習のめあてをもつ。（1・2時）

・新出漢字を提示し，読みの抵抗をのぞく。

・各自のめあてにしたがって読む。（一人読み）

・一人読みをもとに話し合い，学習課題を設定する。

〈第二次〉　読みを深め・まとめる。（3・4・5・6時）

・学習課題をもとに読みを深める。

・書き手の考えを読み取り，それに対する自分の感想・意見をまとめさせる。

〈第三次〉　読みを深め・広げる。（7時）

・学習のふりかえりをする。

・読書生活の反省をし，読書計画を立てる。

時	学　習　活　動	指　導　内　容	指導上の留意点
1	・単元名や題名から内容を予想する。 ・筆者は何をどのように書いているかを考えながら読む ・本文をよみながら，3つの課題について思いうかんだところに線を引き，ワークシートに感想を書く。	・題名について考え，せんこう花火のイメージを各自つかませる。 ・段落ごとに音読させる。 ・課題は刺激となればよいので三つの課題をすべて書かなくてもよいようにさせる。	・難語句について説明を加えながらゆっくり，ていねいに範読する。 ・感想を書くための具体的な手がかりを与える。 ①初めてわかったり考えたりしたこと。 ②作品から感じたり，思ったりしたこと。 ③みんなで確かめたいことをとらえさせる。
2	・第一時の感想をみんなで出し合って話し合いをする。 せんこう花火は，日本独特の花火で不思議な爆発があり美しさややさしさがある。	・第1時の読みを確認させ，さらに気がついたことがあれば，つけ加えさせる。 ・感想を発表しあいながら，各自の読みを広げ，学習課題をきめる。	・第1時の読みから学習課題に連続させるためには ①第1時の読みの交流をふまえ， ②説明文の構造について考えるとともに， ③この作品を読んで学習者が自己の読みを形成できるように， ④本文の題材を統合して箇条書きにまとめさせる。

3	≪夏の風物詩としてのせんこう花火≫ ・第一段をくわしく読み取る 夏の夜の過ごし方について 今の遊びと昔の遊び 子どもの遊びと大人の遊び ・第一段に名まえをつける。	・四段構成になっていることを理解し，せんこう花火と日本人との関わりについて考えさせる。 ・学習のまとめを小見出しづけによって行う。	・遊び道具であるせんこう花火を「友達」としてとらえる筆者の立場に気づかせる。
4	≪せんこう花火の燃え方≫ ・第一段に比べてせんこう花火の燃え方に説明が移行していることがわかりどのように燃えるのかをまとめる。	・せんこう花火の燃え方を，比喩的な表現・発想のよい部分で気づかせる。	・第一段と比べてどんなことに説明が移っているかをかんがえながら読ませる。
5	≪日本独特の美しさ≫ ・第三段の小見出しを考えながら読む。 ・せんこう花火と外国の花火の燃え方を比較しまとめる。	・外国の花火と比べながら，せんこう花火を大切にしてきた日本人について考える。	・日本の花火のよさを知るための外国の花火の燃え方をまとめさせる。
6	≪どうして，不思議な爆発をするのか≫ ・せんこう花火の不思議さはどこにあるのか考えながら読む。 ・第四段に小見出しをつける。 ・筆者の考えに感想をもつことができる。 ・構想メモをもとに，自分の読みをまとめる。	・作品全体の構成をまとめ，筆者の表現の工夫について考える。 ・筆者の考えをまとめ，それに対する感想をもたせる。 ・考えを広げたり深めたりしながら書かせる。	・この段はまとめの段であることを意識させる。 ・本文全体を通して筆者の物の見方・考え方を整理して焦点をしぼってまとめさせる。
7	・読みの交流をし，自己の読みを広げる。	・科学的な読み物への動機づけをする。	・自分の読みを意識づけ，これからの読み方に発展させられるようにする。

評価　・表現の細部に注意しながら内容を正確に読み取り筆者のせんこう花火（日本の文化）に対する考えや自分の考えをまとめ，意欲的に話し合いに参加することができたか。
・日本の文化に興味・関心をもち，身近な事象を科学的な目で見たり，目的に応じて本を選び，読み深めることができたか。

参考図書
中谷宇吉郎　『霧退治　科学物語』　岩波書店
西山　　妙　『道は語る』〈ほるぷノンフィクション絵本〉　ほるぷ出版
林屋辰三郎　『京の四季』　岩波書店
平島　裕正　『塩の道』　講談社

≪ワークシートへの記入例≫（第4時）

時期	言葉	動き	音
点火	まず やがて	いぶりだす 勢いよくとび出す	ぷすぷす
火の玉 ㊟	始めは やがて	できる 静かに燃える 細かくふるえる にえたつ ほとばしり出る うず巻く ちんもく（する）	ぐつぐつ
まつ葉火 花	とつぜん そして やがて そして	発射が始まる しょうとつする くだけ散る 爆発する 発射される 休む ふるえる 弱る 垂れ始める 垂れ落ちる ひと休み（する）	シュッと ぶるぶる
散りぎく		はらはらと 散ってくる	はらはら
落下		はきつくす 落ちる	はらはら ぽとり

音楽性	人生	四季
静と動のくり返し ← 〈線条性〉変化・複雑・楽しい	誕生 若さ 活躍＝はなばなしい 老せい＝おちつき 死	春 夏 秋 冬

5　本時の指導

(1)　本時のねらい

・　外国の花火と比べながら，せんこう花火を大切にしてきた日本人の考えや思いを読み取ることができる。

・　筆者の考えを受けとめて文化について考えようとすることができる。

(2)　授業仮説

・　せんこう花火の第３段落の読みにおいて，大事な言葉や文末表現をおさえながら２つの花火の違いを対比させる授業を組織すれば，せんこう花火に対する筆者の物の見方・考え方を読み取り，それに対する自分の感想をもつことができるであろう。

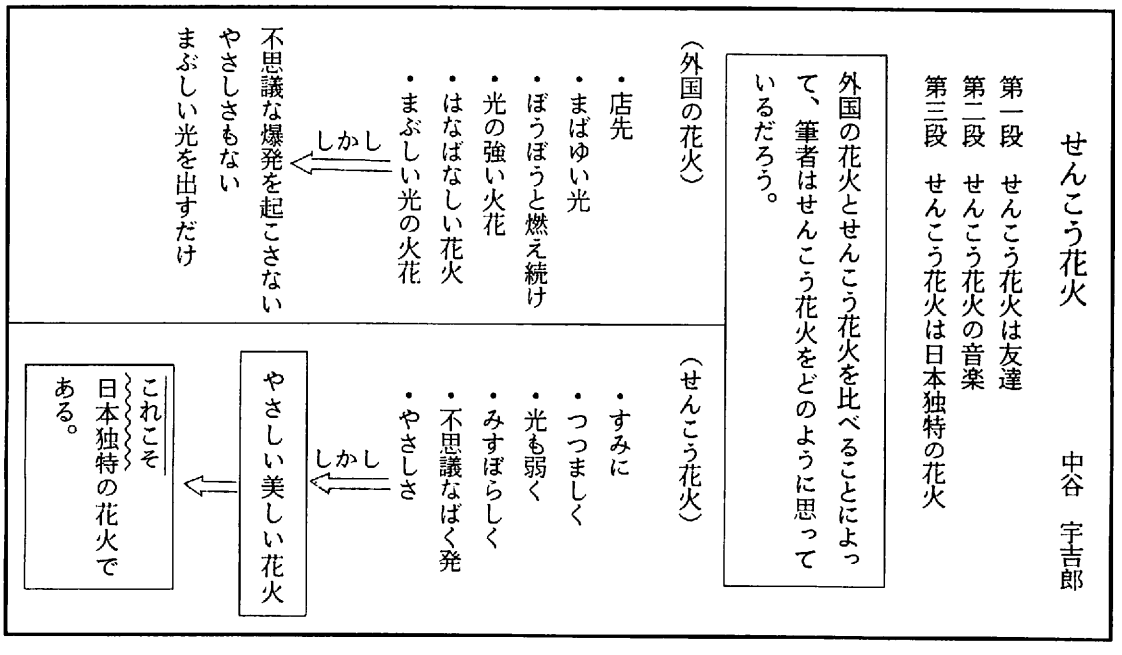
(3)　展開

	学　習　活　動	指　導　上　の　留　意　点	評　　価
確認する	１本時の学習について話し合う 筆者のせんこう花火に対する気持ちを考えましょう。	・前時の学習を想起させ，本時の学習につなげるようにする。	・これまでの内容を大まかにとらえることができたか。
	・第一段と第二段の内容を想起する。	「せんこう花火は友達」 「せんこう花火の音楽」	
つかむ	２せんこう花火がなぜ日本独特のものなのか。またそれをどのように説明しているかを考えながら読む。	・第三段の小見出しを考えながら読ませる。	・表現にそってくわしく読み取ることができたか。
よみとる	・第三段の小見出しを考える。「せんこう花火は日本独特の花火」	・この段には，はっきりした比喩表現が示されてないが，今までの表現の仕方から「せんこう花火は（の）…」という形でまとめる。	
	・どんなところが日本独特だと言っているのか考える。	・後にある外国の花火との比較が行えるようにしておく。	
	・それを，どんな方法を使って説明しているのか読み取る。	・光・変化・燃え方の特徴をとらえて比べることができるようにする。	

	・二つの花火の燃え方を比較する 3 筆者の二つに花火に対する評価のちがいを考える。	・語の対応に気づかせる。 弱くみすぼらしい。 だから　だめである。 しかし　美しく，やさしい	・表現に気をつけながら2つの花火のちがいを読み取ることができたか。
まとめる	4 せんこう花火（日本の文化）に対して，自分の考えをまとめ発表する。 5 本時のまとめをして，次時への見通しをもつ。	・外国の花火と比べることで，せんこう花火を大切にしてきた日本人について考えさせる。	・自分の考えをまとめることができたか。

評価：　外国の花火とせんこう花火の違いを読み取り，せんこう花火に対する筆者の考えをまとめ，自分の感想をもつことができたか。

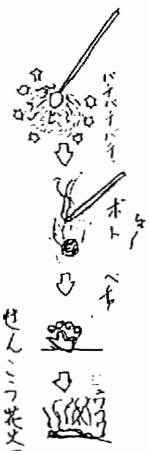
〈本時の板書例〉



題名について考える

◎「せんこう花火」のイメージをまとめてみましょう

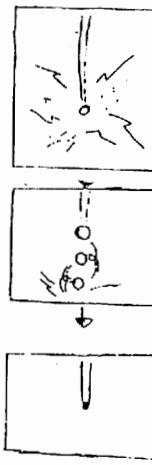
せんこう花火の一生



せんこう花火の一生ってあたら？

梨屋博え

きれい



すぐおわる

おわり

古田文

パチパチしていてさいしょは明るいけど
みじかいあいだに、音がなくなって
まるいのがひとつになって下におちてしまう

銘苅睦子

（第５時）

外国の花火とせんこう花火を比べることによって、筆者はせんこう花火をどのように思っているのでしょう。

・第一段のタイトル…せんこう花火は友達
・第二段のタイトル…せんこう花火は音楽
・第三段のタイトル…せんこう花火は日本独特

◎外国の花火と日本の花火の燃え方を比べましょう

外国の花火（菊花火）

・まばゆい光をだし、ぼうぼうと、もえ続ける。
・火のたまをぽんと空高く打ち上げる。
・はじめからおわりまで、光の強い火花をたくさん出し続ける。
・ははばなしい花火が多い。
・変化がない。

⇒ まばゆい
ははばなしい
ごうか
派手でどうどうとおかれてる。

日本の花火（せんこう花火）

・松葉火花（ふしぎなぼく発をおこす）
・散りぎく（花弁のようなやさしい短い花火）
☆せんこう花火は、火のたまから、松葉火花にかわったり、ふしぎなカをもっている。

⇒ せんこう花火は光もよわく、みすぼらしくみえる。しかし、松葉火花のようなふしぎなぼく発や、散りぎくのようなやさしさがある。

これこそ日本独特の花火である!!

◎みなさんはせんこう花火（日本の文化）についてどう思いますか。

せんこう花火は、みすぼらしくみえるけど、松葉火花とか、散りぎくとか、いろいろ変化があって、とってもすごい!!と思う…

6－4
大村愛

6　実践を終えて

(1)　授業者の反省

・一斉読みの場をもったが，文が長く時間がかかった。

・まとめの時間を充分に確保し，筆者のせんこう花火に対する気持ちを読み深めさせたかった。

・発問の仕方や間のとり方・板書の仕方に工夫が足りなかった。

(2)　感想・意見

・子ども達と接する時間は短かったと思われるが，教師と児童の関係は良く雰囲気もよかった。

・学習課題をみつけるのに時間がかかったが，その後は子ども達の動き・発言・授業の流れなど良かった。

・各段に小見出しをつけることにより，子ども達に読みの意識づけができたと思う。

・机間巡視をしながら，児童の考えの良い例をみつけ発表させることで，児童も刺激をうけ，考えをより深めることができるようになるのではないか。

(3)　指導助言（新嘉喜・諸見里）

・教材を取り上げる時，時代背景を考え，教師があたりまえと思っていることでも，子ども達はわからないこともあるので現代の様子（子ども）におきかえる必要もある。

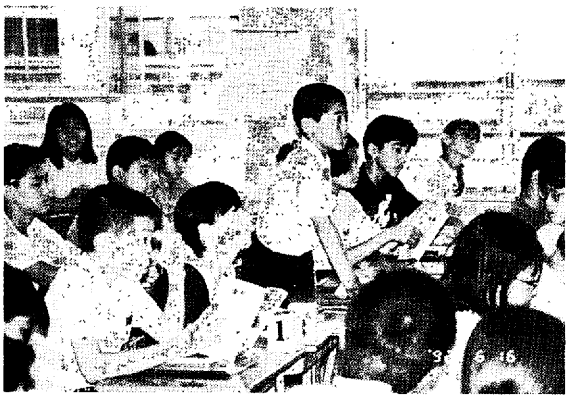
・学習計画や学習のスタイルの中で，前時で学習課題をつくっておき，導入では今日の課題の確認をすることで，学習を進めていくことも一つの方法だと思う。

・言葉の対比・比較・関係づけ・照合することは，考えが整理されるので大事にしたい。

・耳なれない言葉（つつましやか・日本独特など）は，いろいろな学習の場で子ども達に知らせる手だてが必要だと思う。

・子ども達の活動の中から，教師の発問・追求の仕方が弱くないか，児童の読みが足りないのか，また，学習形態の工夫はなされているのかなど考える必要がある。

〈授業風景〉



V　まとめと今後の課題

1　研究のまとめ

高学年の説明文の指導では，児童が学習課題を明確に自分のものとしてとらえ，自己の立場で教材文に接していく学習を構築する学習が大事である。教材文によっては，表現内容によって文章構成が異なるのがふつうである。要旨が明確に表現されているものや，文章全体を通して表現してあるもの，間接表現がしてあるもの，文章の裏にかくされているものなど，教材文の特質に応じた指導が工夫されなくてはならない。

学習課題を決めて読み進めていく学習は，子どもの主体性を生かすために大変有効であると考える。しかし，学習課題即答えを出すことではなく，答えを出すまでの思考の過程を大事にしていかなければならない。理想的な学習課題づくりは，子どもと教師が関わりあえることだと思う。

筆者が感動をもって語っている文章に，心をゆり動かされるような授業を行うためには，文章を自分の生活と比べながら読み，ふつふつと湧き出る疑問を，文章と対決しながら，一人であるいは学級みんなの力で解決したときの深い喜び・感動のあじわえる授業を心がけたい。

2　今後の課題

(1) 学習課題を基に調べることはできるようになったが，それを発表し，みんなで練りあい，まとめていくということはまだ不十分である。そこで，教師の技量が必要になり，児童の多様な意見に臨機応変に対応できるようにしていきたい。

(2) 教材文を読み取っていくための基本になるのは，子どもの疑問や発見であると思われるので，子どもが積極的に疑問をみつけ，発見をしようとする雰囲気づくりをしていきたい。

※　終わりに

またたく間に過ぎてしまった4ヵ月間です。研究の見通しがもてずみなさんに心配をかけながらの毎日でしたが，すばらしい仲間と話すなかから少しずつ道が見えはじめてきたこの頃です。

説明文の読みとらせ方には，まだまだたくさんの課題をかかえていますが，この研究所での経験を大事にしていきたいと思います。保久村教育長・前田所長をはじめ指導主事の先生方ありがとうございました。さらに，諸見里係長・研究所の方々・研究員のみなさん深く感謝いたします。

≪参考・引用文献≫

「説明文をきらいにしない授業のヒント」　石田佐久馬著　東洋館出版社
「説明文でなにをどう学ばせるか」　石田佐久馬著　東洋館出版社
「これだけは教えたい基礎・基本」　筑波大附属小学校　国語科教育研究部共著　図書文化
「説明文教材　小学6年」　渋谷孝・市毛勝男編　明治図書
「小学校学習指導要領の解説と展開」　古田東朔代表著者　教育出版
「小学校国語指導細案　理解領域　6年」　藤原宏・小森茂著　明治図書
「国語教育　91,9」　宮下昭廣著　明治図書